牧之原市第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画（案）
 についての御意見御質問への回答

意見別に回答を記載しています。

	御意見・御質問	回答（市の考え方）
1	<p>第3章障がい福祉サービス等の実績と見込量 1（8）発達障害者等の支援【新規】</p> <p>「ペアレントメンターの見込」が、令和5年度1人とあるが、導入時期を早め、遅くても令和4年度に2～3人を提案する。</p> <p>診断名はつかないが気になる子の親が多く、親は、「話す場、聴いてくれる人、共感してもらえる安心感」を必要としている。ペアレントメンターも親であるので負担の分散が必要である。</p>	<p>ペアレントメンターの導入に必要な養成研修や活動先の確保、バックアップ体制等について、福祉関連機関や行政関係部署が連携し、発達障がい児支援全体の体制を踏まえた検討を進め、必要な人材確保を目指してまいりますので、見込量は素案のとおりとします。</p>
2	<p>第3章障がい福祉サービス等の実績と見込量 2（1）成年後見制度利用支援事業</p> <p>「高齢者保健福祉計画」の成年後見制度利用支援事業に定める報酬助成件数の見込と「障がい福祉計画」の成年後見利用支援事業に定める利用者数の見込は、整合性がとれる表現にするべきである。</p>	<p>ご意見のとおり、報酬助成の利用件数であることが分かるよう、表記を利用者数（人）から利用件数（件）に修正し、高齢者保健福祉計画との整合性を図ります。</p>
3	<p>第3章障がい福祉サービス等の実績と見込量 2（1）成年後見制度法人後見支援事業</p> <p>法人後見支援事業に市民後見人の育成のことを記載しているため分かりにくい。別の項目にするか、表題を「法人後見支援事業及び市民後見人の育成」とするべきである。</p>	<p>成年後見制度法人後見支援事業は、後見等の業務を適正に行うことができる法人の確保と市民後見人の活用も含めた法人後見の活動を支援し、障がいのある人の権利擁護を図ることを目的としていますので、素案のとおりとします。</p>